



秋田県立 大曲支援学校 教育プラン

I 学校の現状と課題・学校を取り巻く将来の状況の予測

1 学校の現状と課題

(1) 児童生徒状況

近年の児童生徒数の増減については平成27年度の153名を最高に、平成28年度のせんぼく校の開校から減少傾向にある。

小・中学校の特別支援教育の推進により、近年、小学部は、重度・重複障害のある児童が多くなっている。中学部も同様であるが、現在は、高等部入学を見越しての転入生の増加も見られている。高等部は、高等学校内の特別支援教育が進んでいないため、軽度知的障害や発達障害のある生徒の高等部入学が増加し、数年後には全校の半数以上を占めると予想される。寄宿舎生は減少傾向にある。

近年は、児童生徒の障害の多様化により、多くの障害種に対応できる専門的な指導・支援が必要なケースが必要となってきた。

(2) 特色ある教育活動 [「地域が教室」～伝統の継承と発展～]

開校当初から、地域との日常的な交流活動を中心とした教育活動を実施している。小学部のさつまいも交流、中学部のクリーンアップなど伝統的な活動から、高等部の地域行事への参加、寄宿舎生によるおもてなしなど、近年は貢献活動を継続実践し、地域に根ざした活動を展開している。

近年では、県南地区特別支援学校間の交流活動を推進し、作業学習等の合同学習や技能競技会、特体連の競技種目、部活動の合同練習を実施している。

今後は、創立30周年に向けて、さらに地域の中の知名度を高めるための取組が必要である。地域との共催行事の運営に参画するなど、地域に貢献するとともに、本校が地域を支え、地域を活性化する一役を担う意識で教育活動を実践していくことでさらに地域に認知される学校になると考える。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

(1) 発達障害等のある児童生徒数の増加が予測される。肢体不自由教育を含め、障害の多様化に応じた教育課程の編成が急務であり、知的障害教育を中心とした教育課程を実施する中で、個の教育的ニーズに応じた指導計画の作成が課題と言える。

(2) 地域に貢献できる学校づくりを目指す中で、地域の課題に対応した教育活動として環境美化、高齢者支援、防災などを題材とした学習活動の増加が予測される。

(3) 一般就労する生徒の増加へ対応する職場開拓と職域の拡大に向けた取組が喫緊の課題であり、小学部段階からのキャリア教育の整備と集大成としての高等部での実践的職業教育の取組が重要となる。

(4) 地域の小・中学校等が特別支援教育に関する課題を自校で解決する力を付けていくための支援が必要である。また、多様な学び場としての小・中・高等学校へ発信する特別支援学校の教育の充実がさらに必要となる。

(5) 寄宿舎生の減少が予測されている。寄宿舎の機能や教育力を生かした生活指導の成果を掲げ、卒業後に結び付く寄宿舎生活の価値を自宅通学生への利用につなげていく必要がある。

Ⅱ 目指す方向性・学校像や幼児児童生徒の姿

1 学校像

「瞳かがやき、笑顔あふれる学校」

特色ある学校づくり(地域が教室～伝統の継承と発展～)

- (1) 地域に根ざした学習活動、地域の人々との日常的な交流活動
- (2) 地域における本物の体験を通じたキャリア教育の充実
- (3) 児童生徒の主体的を育む学校環境整備

2 児童生徒像

児童生徒一人一人の障害の状態や発達段階、特性等に応じた知識、技能、態度を身に付け、積極的に社会参加、職業自立できる児童生徒を目指す。

- (1) じょうぶな子 健康で、安全な生活ができる児童生徒
- (2) すなおな子 明るく、仲良く、礼儀正しい児童生徒
- (3) がんばる子 進んで取り組み、最後までやりぬく児童生徒

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

1 新学習指導要領に対応した教育課程の編成と授業づくりの推進

- (1) 個別の指導計画や年間指導計画の目標、評価等の整合性を図るための自立活動部会、教科別指導部会、進路学習部会の効果的な運用
- (2) 「日々の授業改善協議」における全教員による授業提示と示範授業の提示
- (3) 新学習指導要領の周知・理解に向けた研修会の継続的な実施
- (4) キャリア教育の視点による月別目標設定・実施・評価、個別の指導計画及び年間指導計画との整合による新たなキャリア教育プランの提案と実施

2 地域行事を題材とした学習活動の展開

- (1) 「大曲の花火」に関連する小・中・高の一貫した学習活動の展開
- (2) 「大曲の花火」の主催者と協働した企画・運営等への参画
- (3) 地域住民に向けた行事告知、学校紹介の看板設置等による宣伝活動の実施
- (4) FMはなび等の報道機関での本校教育活動の定期的な紹介

3 職域開拓と実践的職業教育の強化

- (1) 地域事業所と協働した作業学習製品の改良と新製品等の開発や品質向上に向けた校内ブランド化の確立
- (2) 生徒の作業技能向上を目指した校内検定の実施
- (3) 職業教育の充実に向けた年間を通じた定期実習の強化
- (4) 進路学習における生活単元学習、職業科、作業学習の系統性を明確にした「進路学習基本設計(仮称)」の作成と実践

4 特別支援学校のセンター的機能の発揮

- (1) 小・中学校等における特別支援教育の課題に関する自校解決力向上に向けた支援の強化
- (2) 児童生徒の多様な学び場として小・中・高等学校等との連携強化と発信する特別支援学校の教育の向上

5 寄宿舎の機能を生かした教育活動の展開

- (1) 学校近辺からの自宅通学生を含む、全校児童生徒の活用促進を目指した寄宿生増加へ向けた取組の推進
- (2) 学部と連動した健康・衛生、身だしなみ指導の実施